科目ナンバリング			
授業科目名 <英訳>	自然と文化 －農の営みを軸に－ Nature and Culture : Perspectives from Agriculture	担当者所属 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之

群	キャリア形成科目群	分野(分類)	地域連携	使用言語	日本語

旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）

開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	水2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

農林業は、生物生産を通じた技術的体系あるいは経済的営為であるだけでなく、自然と深く関わってきた歴史の所産としての文化という側面をもっている。また、農林業は、その営みを通じて地域の環境形成やその維持にも大きな役割を果たしてきた。国内外での多様なフィールドワークにもとづいて、地域の環境や文化の形成・維持に果たしてきた農林業の役割を明らかにしつつ、「農」の営みがもつ現代的な意義と意味を問いかける。

[到達目標]

地域の環境や文化の形成・維持に果たしてきた農林業の役割を考察できるようになる。

[授業計画と内容]

各教員が複数回の講義を担当する。それぞれのフィールドワークを基礎に以下の課題についてリレー講義を行う。

第１部　生存を支える農の営み
1. 人類世と生存学（竹田晋也）
2. 食と自然への生物学的適応（古澤拓郎）

第２部　文化としての水田耕作
3. 里山の環境利用（小坂康之）
4. アジアの水田稲作と「緑の革命」（小坂康之）
5. 水田稲作と水域生態系（ゲストスピーカー：岩田明久）
6. アジアの市場から地産地消を考える（小坂康之）

第３部　森が育む文化
7. 「常緑の革命」としてのアグロフォレストリー（竹田晋也）
8. 非木材林産物と資源管理（竹田晋也）
9. ヒマラヤの暮らしの変容（小坂康之）
10.ブータンから京都の農林業と農山村を考える（ゲストスピーカー：安藤和雄）

第４部　海がある暮らし
11. 熱帯島嶼部の暮らしと環境問題（古澤拓郎）
12. 自然知としての暦と生業（古澤拓郎）

第５部　農と食の未来
13. 自然環境に適応した農のある暮らしの再評価（ゲストスピーカー：安藤和雄）
14. アジアの食文化グローバリゼーション（古澤拓郎）

15. 期末試験

自然と文化 －農の営みを軸に－(2)へ続く↓↓↓

自然と文化 －農の営みを軸に－(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の講義の最後に出席確認を兼ねたアンケート調査を実施する（評価には含めない）。授業参加度４０点、期末試験６０点で成績を判定する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の中で文献・図書を紹介するので、自学自習に役立ててほしい。

[その他（オフィスアワー等）]

農学を志す学生だけでなく、広く人と自然の関わりや農林業に関心をもつ学生を対象とする。これまでも文科系学生が多数受講しており、理科系・文科系相方の学生の受講を期待する。